

初代筑後国主田中吉政

岡崎の魂



八女福島文平座公演

場所 八女伝統工芸館 公演日 5月19日(土) 20日(日) 公演時間 PM14:00~15:15

一般1500 小中学生500 当日も同じ 問合せ 陶工房絵咲木0943-22-2634

初代筑後国主田中吉政

第四部 岡崎の魂

天正18年（1590）田中吉政公は、徳川家康公出生の地三河岡崎へ、10万石の領主として入部しました。

豊臣秀吉は、北条を攻め落とし、徳川家康を関東へ移封し、天下人としての位置を不動のものとした時期。徳川家関東移封は、三河国の領民や残った家臣の一族にとっては、晴天の霹靂ともいべき出来事だったでしょう。しかも新しい領主として入って来るのは、秀吉の右腕田中吉政。人々は戦々恐々として、新しい領主の入部を見守った筈です。

一方、田中吉政は、どんな覚悟で三河岡崎へ乗り込んだのでしょうか。

生半可な覚悟では、領民との間に埋められぬ軋轢を生み、国の経営は破綻していたでしょう。しかし、吉政公は見事に三河国経営に成功しました。それだけでなく、岡崎時代の10年、吉政公の業績を見ると、円熟の時代だったと言えます。

他に類を見ない東海道27曲りの造営、天守閣建設と城の大改修。岡崎の城は、日本で4番目に大きな城なのです。罪人を罰せず、家と田畑を与え開墾に当たらせたり、対立ではなく、和合を第一義として、国の経営にあたっています。その底には、吉政公の徳川家に対する敬意が感じられるのです。それは、取りも直さず、吉政公が徳川家康公の治世に、様々の事を学んだ証拠だと言えるのではないのでしょうか。

このお芝居は、三河岡崎での第一歩を踏み出す、吉政公の姿を描いたものです。

どうぞ、お楽しみ下さい。

八女福島文平座 座長中村文平



マスコット 田兵（でんぺい）くん

